

授業者も参加者も創る!!高まる!!広げる!! 西部の英語の未来へバトンをつなぐ



令和4年1月発行
西部教育事務所

今年度は清水中学校が英語科授業づくり講座の拠点校になっています。新たなことにチャレンジしながら、研究を深めています。今回は、教材研究会（9月21日（火））、授業研究会（10月11日（月））の様子を紹介します。



西部管内の
講座関係者へ

教材研究会 令和3年9月21日（火） 第1年 Unit8 A Surprise Party 話すこと【発表】イ



- 1.生徒が本気になる課題設定
- 2.言語活動の中での文法導入
- 3.問いを持たせた上での知識・技能の指導

単元ゴールとしての言語活動

目的:小学校6年生に普通の中学校生活を知ってもらい、中学校入学を楽しみにしてもらうために

場面:班で

状況:学校紹介ビデオを作成する

1.単元の入り口（導入部分）は、生徒が本気になる課題設定が大切です。生徒に「よし！やるぞ！自分だったら…」と思わせることができれば、生徒は自ら学び始めます。そのためには、やはり目的・場面・状況を明確にした自分事となる課題設定が重要です。

・“小学校6年生に中学校入学を楽しみにしてもらうために”をキーワードに、中学校の授業や部活動の様子をリポーターになりきって話すという単元ゴールを知り、単元の見通しを持つ。

言語活動

まとめと振り返りを入れる

3.基礎的・基本的な知識・技能は必要不可欠です。理解するという知識の面と、その知識を5領域による実際のコミュニケーションにおいて活用できるという技能の面とが、知識及び技能の資質・能力の内容です。

まず生徒に「どう表現すれば良いのか？」と問いを持たせた上で、知識・技能の指導を行います。さらに、指導したことができていないかを見取り評価を入れ、指導を入れ、と繰り返して行きます。

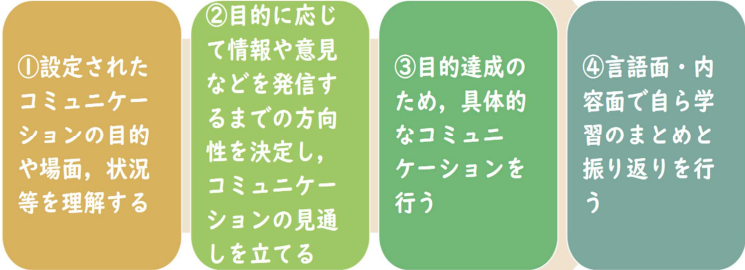


言語活動及び言語の働きに関する事項

外国語の学習においては、語彙や文法等の知識がどれだけ身に付いたかに主眼が置かれるのではなく、児童生徒の学びの過程全体を通じて、知識・技能が、実際のコミュニケーションにおいて活用され、思考・判断・表現することをくり返すことを通じて獲得され、学習内容の理解が深まるなど、資質・能力が相互に関係し合いながら育成される必要がある。

学習指導要領解説 P.54

外国語教育における学習過程



外国語科の目標に「言語活動を通して」とあるため言語活動ばかりを意識してしまいがちですが、目的達成のためには具体的なコミュニケーションを行うだけでなく、外国語科の学習過程で学習を進めていくことが大切です。

その過程において、言語面や内容面、態度面など、色々な見方・考え方を働かされるのが重要です。生徒自身が実践しながら「場面に合わせてふさわしい表現を使う」という経験をする必要があります。「生徒がつまづかないように…」と、先生が親切心からあらかじめ語彙や表現を提示し与えていては、生徒はいつまでたってもできるようになりません。生徒が自ら思考し、判断し、表現できるように、言語活動の目的・場面・状況を明確に設定した上で、コミュニケーションを図りながら学んでいる姿を評価し、指導していきましょう。

教材研究会を受けて

英語科より・第2時の早い段階で新出言語材料を入れて、第3時以降に生かしたい。

- ・小学生が知りたい内容については、生徒たちが自分の体験を基に考えるよう指導していきたい。
- ・単元ゴールにつなげるように、毎時間の最後で単元ゴールを意識させる活動を入れる。

学校より

「1回目より二回目。より良いものにしていきたい。他教科へどう広げていけるかが課題である。能力ベースの授業づくりの考え方を広げたい。」

授業者
村上 美佳 教諭



ALT
Nakita Pike



清水中学校では、第1回授業づくり講座で学んだ①文法導入の際は、意味と使い方を理解させた上で Form(ルール)を教えること②目的・場面・状況を明確にした課題設定を行うこと③教師が手立てを与えすぎないように十分注意し、生徒に気づかせるようにすることの3つのポイントを、日々の授業に取り入れて実践を積んできました(詳しくは第1回授業づくり講座レポートをご覧ください)。今回の授業研究会では教材研究会で出された意見を基に、「場面の中で生徒に問いを持たせた上での文法事項導入の再チャレンジ」と、「目的・場面・状況を明確に設定し、見方・考え方を働かせる単元構想」を意識して、単元や本時の授業が再提案されました。

文部科学省 山田 誠志 教科調査官より

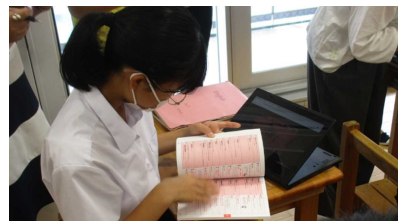
本時の授業について



今回の授業では、「ナレーション」をするという場面設定に弱さがあったため、生徒自らがその言語材料の有用性に気づき「よし!使って表現しよう!!」にはならなかった。生徒の言葉を拾って設定したためあてだったが、課題を全員が理解できていないままになっていた。課題設定はもっとシャープに設定する必要がある。また、表現の気づきを促すためにも、気づいて欲しい

大切な表現は板書しアンダーラインを引くなど、ハイライトして視覚化することで、いつでも見返せるよう工夫が大切である。

授業に課題があるのは当たり前で、誰が授業をしたとしても課題は必ずある。大事なことは「課題がない授業をすることではなく、学んだことを生かすこと。言葉をかえれば、学んだことをあなたの後ろにいる生徒たちにちゃんと還元すること。」なぜなら、生徒に還元しないと何の意味もないから。今日学んだことを明日からの自分の実践にきちんと入れ込むことが大切である。**理解したことを実践へ!!**そういう意味で、今回の清水中学校の授業では前回の授業づくり講座での学びを生かして、チャレンジしているところが素晴らしかった。



参加者の声

新出言語材料の導入時においては、前回の学びを生かし、やり取りや場面設定から導入し、Form(形式)は後で教えるよう心がけています。今日山田調査官から学んだ3点については、自校の教科会でも確認し、共に授業を変えていきたいと考えています。

山田 誠志調査官からの授業づくりの3つのPoint

Point①

新出言語材料は、文脈のある会話で導入する!

新出言語材料を教える時には意味や形だけでなく、使い方も理解させるようにする。使い方を理解させるために必要なことは、**場面や文脈を会話から生み出す**こと。その中で現在進行形をたくさん使わせるようなやり取りを通して、現在進行形の使い方を理解させるよう指導する。

Point②

既習の資質・能力を生かして指導する!

「色々な表現を生徒に使わせたい!」そのためには、本時で教えたい新出言語材料のみでなく、日頃から教師が授業の中で既習表現を意図して使い、即効性を高めていくことが大切である。何度も何度も聞いたり、読んだり、話したり、書いたりしないと、技能は身に付かない。

Point③ 指導方法を見直す!

新出言語材料を1時間かけて導入する必要があるのか?指導方法を見直すべきである。1時間かける時もあるが、その必要がない場合もある。1時間かけて導入するのであれば、3文~4文のまとまりで話すことを目指したい。1時間かけない場合の一例として、教科書本文の理解をメインストリームにして、気づいて欲しい大切な表現まで来たら、本文から外れて導入しながら読み進めるという方法もある。しかし1時間後に全員が本当に現在進行形をきちんと理解して描写ができるかという、できない!何度も何度もくり返すことで、できるようになってくる。指導した後も、全員が表現できるまでしっかりくり返し指導することが大切である。

今後のKey Word
理解したことを実践へ!!

授業づくりにおいて根本的に大切なことを教わりました。学んだことをどう生かすか、どう子どもに還元していくか、次のステップへとつなげていくことが大切だと気づきました。



小・中・高と他校、異校種の先生との意見交流が、大変有意義だった。